

### III. ビデオ教材「博物館学芸員の仕事 考古学編」の評価調査

芝 崎 順 司

#### 1. 目 的

ビデオ教材「博物館学芸員の仕事 考古学編」は、プロジェクトチームの編成、全体構想の検討、予備調査、企画原案の検討、企画構成案の最終決定、予備調査、シナリオ作成、収録、粗編集、試写、本編集、録音、完成試写、部分修正という一連の制作段階をへて完成に至った。さらにこうした各段階において、センター教官、あるいは外部の専門家を含めたプロジェクトチームによる形成的評価を行い、内容の精度を高めた（その過程の詳細は本報告書内で報告している）。

そこで次に教育目標やねらいがどこまで達成されたかを調査し、その結果を次の教材開発のための実証的データとして利用するために、完成した映像教材に対する評価調査を行った。

ビデオ教材「博物館学芸員の仕事 考古学編」として、平成7年度から平成9年度にかけて『発掘調査』、『資料の整理と保管』、『企画展示』、『常設展示』、『体験学習』、『資料の分析と保存処理』の6教材を開発した。それらのビデオ教材について、授業者を対象とした教材の適切さ、有用性の評価、ならびに博物館学芸員養成課程の授業を受講する学生を対象とした内容の理解度、有用性の評価などの評価調査を実施している。

ここでは、「博物館学芸員の仕事 考古学編」のうち、平成7年度に完成した「企画展示」、平成9年度に完成した「常設展示」のそれぞれについて、文学部史学科に所属し、博物館学芸員養成課程の授業を受講する学生を対象に筆者自身が行った評価調査の概要を報告する。内容に対する興味や必要性が最も高いと思われる、すなわち、教材開発者が視聴者として想定している学生を対象にした。なお、他の教材の評価調査については現在データ整理中であり、結果がまとまり次第なんらかの形で報告する予定である。

#### 2. 調査方法

##### (1) 調査対象

「企画展示」、「常設展示」とも、文学部史学科に所属し、博物館学芸員養成課程の授業を受講する同一の学生54名

##### (2) 調査票

両ビデオ教材に対する評価で使用した調査票は、項目数とその記述内容に違いがあるものの、基本的な構成は以下の通りである(付録1、付録2)。①学籍番号、氏名、②博物館実習経験の有無、③ビデオ教材の内容に対する評価(5件法、「企画展示」では4項目、「常設展示」では5項目)、④ビデオ教材の長さの適切さ及びその理由、⑤博物館実習事前準備としての有用度(5

件法) とその理由、⑥教材の構成・映像、音声等に対する意見・感想の自由記述。

### (3) 手続き

調査は1997年11月の通常の授業内で実施した。まず、学生にビデオ教材を視聴させ、その後調査票を配布し回答させた。前面に大型のスクリーンがあり、他に学生2人に1台ずつ小型のモニターが設置され、学生は概ねその小型のモニターにより視聴した。

## 3. 調査結果の概要

### (1) 「博物館実習」の経験

博物館実習を既に経験しているものは、66.7%、経験していないものは、33.3%であった(表1)。本教材の開発目的の1つは、博物館実習の事前ガイダンスとして利用されることにあり、学生にとっては博物館実習を経験しない限りふれることがない、実際の博物館の活動を具体的に提示した教材である。そこで博物館実習の経験の有無が教材の内容の理解等にかかわると考えられるので、以後の分析では、博物館実習経験の有無も要因に組み込んで検討する。

表1 「博物館実習」の経験

	「はい」	「いいえ」	合計
人数	36	18	54
%	66.7	33.3	100.0

### (2) 「企画展示」に関する評価

#### ① ビデオ教材の内容に対する評価

表2は、「企画展示」の内容に関する4つの評価項目についての平均とSDを被験者全体、および博物館実習経験の有無別に示したものである(5件法で、5-「非常によく理解できた」~1-「まったく理解できなかった」)。被験者全体の平均をみると、最低が「展示企画の開発」の3.15であり、全項目において概ね高く評価していることがわかる。項目別にみると、特に「展示企画の計画と準備」、「展示作業の実際」という具体的な企画展示の事例手続きに関わる内容が高く、反対に「展示企画の開発」、「企画展示の意義」などの比較的抽象的な内容は低い。このことから、本ビデオ教材において、具体的な事例、すなわち学芸員の作業場面や物によって提示された情報に関しては理解されやすいが、それに比べ解説やナレーション、図表などによって呈示された情報に関しては理解されにくいことが推測される。このことは、これまで開発された教材の評価調査でほぼ一様にみられることである(芝崎・宮本、1996)。

被験者の博物館実習経験の有無別の評価は、ともに全体の評価と同じ傾向を示している。群間に著しい差は認められないものの、一貫して博物館実習経験のあり群の方が高く評価している。

表2 「企画展示」の内容に関する評価

評価項目	全体 N=54		実習経験あり N=36		実習経験なし N=18	
	平均	SD	平均	SD	平均	SD
展示企画の開発	3.15	0.76	3.17	0.76	3.10	0.74
展示企画の計画と準備	4.18	0.57	4.28	0.65	4.00	0.82
展示作業の実際	4.56	0.60	4.61	0.59	4.44	0.49
企画展示の意義	4.15	0.65	3.44	0.68	3.33	0.81

## ② ビデオ教材の長さの評価

ビデオ教材の長さは、被験者全体でみると「適切である」(74.1%)が多く、次に「短い」(22.2%)が多い。反対に「長い」と回答した被験者はほとんどいない(表3)。博物館実習経験の有無別の評価は、ともに全体の評価に同じ傾向を示していて、群間に著しい差は認められない。

「適切である」とした理由は、「内容が簡潔でわかりやすかった」という意見と「退屈しない長さであった」という2つに集約される。

「短い」とする理由は、「言語による説明で終わらせている箇所を映像で見せて欲しい」、「展示企画の計画と準備についてさらに詳細に知りたい」という2つに集約される。

表3 ビデオ教材の長さの評価

評価項目	全体		実習経験あり		実習経験なし	
	人数	%	人数	%	人数	%
長い	2	3.7	1	2.8	0	0
適切である	40	74.1	26	72.2	14	77.8
短い	12	22.2	9	25.0	4	22.2
計	54	100.0	36	100.0	18	100.0

## ③ 実習ガイダンスとしての有用度の評価

表4は、実習ガイダンスとしての本教材の有用度に対する評価の平均とSDを被験者全体、および博物館実習経験の有無別に示したものである(5件法で、5-「非常に役に立つ」~1-「まったく役に立たない」)。被験者全体の平均をみると4.15と高く、また、「2」または「1」を選択した被験者が皆無であることから、概ね有用であると評価されているといえる。被験者の博物館実習経験の有無別の評価は、ともに全体の評価と同じ傾向を示している。群間に著しい差は認められないものの、やや博物館実習経験のあり群の方が高く評価している。

「役に立つ」理由として、「博物館の内側をみること」、「学芸員の仕事の大変さ」、「学芸員の仕事の内容を順序を追って理解すること」、「学芸員としての心がまえ」などができるという全般的な理由と、「展示の方法や資料を傷つけないための配慮」、「資料の取り扱い方」、「服装の原則や注意点」、「資料の借用についての実際の行動」、「展示ディスプレイの時のキャプションの工夫、かざりつけ」などが理解できるという部分的または細かい理由があげられた。「どちらともいえない」理由として、「実習で展示作業にかかわることはあまりない」、「研究的な要因にはかかわらない」、「他館にそのままあてはまらない」などの理由があげられた。

表4 実習ガイダンスとしての有用度の評価

全体 N=54		実習経験あり N=36		実習経験なし N=18	
平均	SD	平均	SD	平均	SD
4.15	0.65	4.24	0.55	4.11	0.74

(3) 「常設展示」に対する評価

① ビデオ教材の内容に対する評価

表5は、「企画展示」の内容に関する4つの評価項目についての平均とSDを被験者全体、および博物館実習経験の有無別に示したものである(5件法で、5—「非常によく理解できた」～1—「まったく理解できなかった」)。被験者全体の平均をみると、最低が「常設展示の内容」の3.56であり、全項目において概ね高く評価していることがわかる。項目別にみると、特に「ローテーション展示のねらい」、「展示替えの過程」というドキュメンタリーによる具体的な展示の作業に関わる部分が高く、反対にインタビューと資料による過去の回想、演出による再現などの手法がとられた部分はやや低い。

被験者の博物館実習経験の有無別の評価は、ともに全体の評価と同じ傾向を示している。群間に著しい差は認められない。

表5 「常設展示」の内容に関する評価

評価項目	全体 N=54		実習経験あり N=36		実習経験なし N=18	
	平均	SD	平均	SD	平均	SD
常設展示のねらい	3.78	0.63	3.78	0.71	3.78	0.42
常設展示制作の過程	3.78	0.92	3.67	0.94	4.00	0.82
常設展示の内容	3.56	0.74	3.28	0.56	4.11	0.73
ローテーション展示のねらい	4.26	0.89	4.39	0.89	4.00	0.82
小テーマ展示替えの過程	3.96	0.84	3.89	0.87	4.11	0.74

② ビデオ教材の長さの評価

ビデオ教材の長さは、被験者全体でみると「適切であり」(77.8%)が多く、次に「短い」(22.2%)が多い。反対に「長い」と回答した被験者は皆無である(表6)。博物館実習経験の有無別の評価は、ともに全体の評価と同じ傾向を示していて、群間に著しい差は認められない。

「適切である」とした理由は、「内容が簡潔でわかりやすかった」という意見と「退屈しない長さであった」という2つの集約される。

「短い」とする理由は、「学芸員の会議の内容をきちんと聞きたい」、「展示品の製作過程をさらにしりたい」という2つに集約される。

表6 ビデオ教材の長さの評価

評価項目	全体		実習経験あり		実習経験なし	
	人数	%	人数	%	人数	%
長い	0	0	0	0	0	0
適切である	42	77.8	28	77.8	14	77.8
短い	12	22.2	8	22.2	4	22.2
計	54	100.0	36	100.0	18	100.0

③ 実習ガイダンスとしての有用度の評価

表7は、実習ガイダンスとしての本教材の有用度に対する評価の平均とSDを被験者全体、および博物館実習経験の有無別に示したものである（5件法で、5-「非常に役に立つ」～1-「まったく役に立たない」）。被験者全体の平均をみると4.00と高く、また、「2」または「1」を選択した被験者が皆無であることから、概ね有用であると評価されているといえる。被験者の博物館実習経験の有無別の評価は、ともに全体の評価と同じ傾向を示している。群間に著しい差は認められないものの、博物館実習経験のあり群の方が高く評価している。

「役に立つ」理由として、「博物館の内側をみること」、「学芸員の仕事の大変さ」、「学芸員の仕事の内容を理解すること」、「学芸員としての心がまえ」などができるという全般的な理由と、「展示の方法や資料を傷つけないための配慮」、「資料の取り扱い方」、「服装の原則や注意点」、「テーマに即した展示物の選び方」、「調査の仕方」などが理解できるという部分的または細かい理由があげられた。「どちらともいえない」理由として、「実習で展示作業にかかわることはあまりない」、「研究的な要因にはかかわらない」、「他館にそのままあてはまらない(ローテーション展示の特殊性)」、「概説としてはよいが、実習ではもう少しきめ細かい知識が必要となる」などの理由があげられた。

表7 実習ガイダンスとしての有用度の評価

全体 N=54		実習経験あり N=36		実習経験なし N=18	
平均	SD	平均	SD	平均	SD
4.00	0.72	4.11	0.74	3.78	0.63

4. まとめ

本調査の結果をまとめてみると、ビデオ教材の内容に対する評価は全体として「企画展示」、「常設展示」の両教材とも概ね高いので、内容の難易度はほぼ妥当であると思われる。また、教材の長さも概ね妥当であると思われる。さらに、博物館実習事前準備のための教材としての有用度も高く評価されたといえよう。つまり、教材としての当初の目的はほぼ果たしているといえるであろう。しかし、比較的抽象的な内容や回想的な内容に関する表現上の工夫はさらにしていく必要があると思われる。

本研究では、教育実習経験の有無は評価にかかわる要因として特定できなかった。本教材で

### III. ビデオ教材「博物館学芸員の仕事 考古学編」の評価調査

は博物館実習では断片的にしか体験できない内容を体系的に学習することが可能であるため、このことはむしろ博物館実習の事前準備以外の利用方法の可能性を示唆していると思われる。

本研究は質問紙法による調査研究であることから、一義的な結論づけをすることはできないが、今後の教材開発に有益な示唆を与える結果であった。

#### (参考文献)

芝崎順司・宮本友弘 (1996)、ビデオ教材「学芸員の仕事」の評価調査、学部教育教材 博物館学芸員の仕事—民俗編—、放送教育開発センター研究報告88、P88

学籍番号 ( ) 氏名 ( )

1. 博物館実習は終わっていますか。

1. はい 2. いいえ

2. このビデオを視聴して、以下の内容について、どの程度理解できましたか、「ひじょうによく理解できた」を5、「全く理解できなかった」を1として、5段階で評価してください。

① 展示企画の開発	5	・	4	・	3	・	2	・	1
② 展示企画の計画と準備	5	・	4	・	3	・	2	・	1
③ 展示作業の実際	5	・	4	・	3	・	2	・	1
④ 企画展示の意義	5	・	4	・	3	・	2	・	1

3. このビデオの長さはいかがでしたか。

1. 長い 2. 適切である 3. 短い

理由：

4. このビデオは博物館実習の事前準備に役に立つと思いますか。

1. 非常に役に立つ (理由： )
2. 部分的に役に立つ (具体的に： )
3. どちらともいえない (理由： )
4. あまり役に立たない (理由： )
5. 全然役に立たない (理由： )

5. 本教材の内容や映像・音声、構成等について、意見、感想を自由にお書きください。

「博物館学芸員の仕事 考古学編 常設展示」

(付録2)

学籍番号 ( ) 氏名 ( )

1. 博物館実習は終わっていますか。

1. はい 2. いいえ

2. このビデオを視聴して、以下の内容について、どの程度理解できましたか、「ひじょうによく理解できた」を5、「全く理解できなかった」を1として、5段階で評価してください。

① 常設展のねらい	5	・	4	・	3	・	2	・	1
② 常設展示制作の過程	5	・	4	・	3	・	2	・	1
③ 常設展示の内容	5	・	4	・	3	・	2	・	1
④ ローテーション展示のねらい	5	・	4	・	3	・	2	・	1
⑤ 小テーマの展示替えの過程	5	・	4	・	3	・	2	・	1

3. このビデオの長さはいかがでしたか。

1. 長い 2. 適切である 3. 短い

理由：

4. このビデオは博物館実習の事前準備に役に立つと思いますか。

1. 非常に役に立つ (理由： )
2. 部分的に役に立つ (具体的に： )
3. どちらともいえない (理由： )
4. あまり役に立たない (理由： )
5. 全然役に立たない (理由： )

5. 本教材の内容や映像・音声、構成等について、意見、感想を自由にお書きください。